

盟主と最高峰を結ぶ沢旅

下田・川内 割岩沢△沢～矢筈岳～光来出沢
東又沢下降～光来出沢～粟ヶ岳

棚橋

【日時】 2008年8月10日(日)～2008年8月14日(木)

【メンバー】棚橋(L)、佐貫、小川、大野

トマでは全く人気のない、というよりも忌み嫌われている、この時期の下田・川内。一昨年もこの時期に訪れている我々2人の他、加わるとしたら大野君か小川君しかいないと、狙いを定めて誘っていたが、両名共なかなか調整がつかない模様。他ルートも検討していたが、何とか計画書を提出する直前にホープ小川君の参加表明があり、漸く計画が確定。更にエース大野君も加わることになり、思い掛けず強いパーティが出来上がった。

またメンバーの大半は、8日夜のムーンライトに乗れない時間まで労働を強いられているので、10日からの日程となった。

8月10日 晴れ

津川駅より、いつものタクシーにて一ノ俣橋まで運んで貰う。一ノ俣越の道は、先月も越えたばかりなので、夏草に覆われた踏み跡も特に探すことなく踏み込み、淡々と進む。前回は沢ルートで最低鞍部に直接出た後、沢を下降したが、今回は下降路も含めてずっと踏み跡を辿った。こちらの方が歩き易かった。

アカバ沢から今早出沢に下り立った途端に、大量のメジロに取り囲まれるのではないかと予想していたが、その姿は疎ら。これなら楽勝！と今出に向かって歩き出したが、3m滝の釜に飛び込んでからは次第に纏われ付かれ出し、今出では皆それぞれの対策を取ることになる。しかしメジロの数は、一昨年よりは少ないようだ。それに前回は、河原中のメジロというメジロは全て私一人と仲良くしたいようであったが、今回は大野君や小川君を大歓迎しているようなので有難い。

今日の泊まり場は夕沢出合の予定なので、暫く釣り上がることにする。魚影は濃いが腕と時間、共に悪いらしく全く餌を食おうとせ



メジロがザックに集合

ず、坊主だった。

小割岩沢出合付近のゴルジュを越えて巨岩帯を過ぎると夕沢出合で、少々早いが予定通りに、今日はここまでとする。幕営の準備を済ませた後、昼寝や干し物等思い思いに時を過ごす。小川君は粘って1尾を釣り上げ、幕場に戻ってきた。

8月11日 晴れ

今晚の幕場適地は西俣沢出合付近といったところだが、それでは後の行動が厳しくなるので、様子を窺いながら進むことにする。今泊りは、何処だかよくわからないまま通り過ぎてしまい、ひょうたん淵は泳いで通過する。トウゾウ平沢が5m滝で左から合わさると、ジッピーが現れる。一昨年に下降した経験によると、この時期、この頃の天気なら泳いで突破も十分可能と思われるが、念のためにロープを引いて行くことにする。しかしロープを出しているうちに偵察に行った佐貫より、容易に通過できたとの合図があったので慌ててロープを仕舞って続く。

北俣沢より上部は未知の世界だ。食料も乏しいので、ここから釣り上がることにする。幸い小川君と二人で、人数分を確保することができた。魚止滝の手前で後方より声がかかり、振り返ると大野君が両手で良い型の岩魚を抱えている。手掴みで捕まえたとのこと。折角なので早速皮を剥き、三枚に下ろして刺身&カルパッチョにさせていただく。岩魚に感謝。

沢はゴルジュ状の溪相が顕著になり、淵と小振りな滝が続く。西俣沢を1:1で分け、3 m2条滝を左から登ると10m滝が現れる。高度感もあるのでロープを出し、小川君がハーケン2枚を使用して登りきる。さあとというところで佐貫より、先人の記録によると10mクラスの大きな滝は本流には無さそうとの報告があり、大野君が偵察に戻る。しかし間違えるような沢は、やはり手前には無かったとのこと。この沢の方向、水量からしても正しいと思われるので、皆が続く。10m滝を越えると先で少ない水量の8m滝が右から落としていた。ゴルジュ内の3m滝連続を通過すると伏流となるが、涸れ滝4mを越えると再び水が現れ、ここで幕とする。



岩魚を三枚に下ろしていただく

8月12日 晴れ

今日は矢筈岳の頂を踏んで、笠堀川側まで下降しなければならないので、5時に出発する。つるつるの小滝連続を過ぎるとゴーロ状で、左から奥で滝を落とす支沢が流入する。この先、右岸から入る枝沢は何れも滝である。その先の6m滝は嫌らしいが、小川君が右

壁より取り付き、ハーケンを2枚使用してトラバース気味に超える。続く5mつるつる滝は、大野君が先行してお助けを垂らしてしてくれた。

滑り台状の滝手前で1本立てる。どうやら割岩沢最大の35m3段滝のようだ。滝が左に曲がっていることもあり、私は左のリッジ状から登るのが良いのではないかと取り付いてみた。しかし見た目以上に悪い上、ビレーポイントも適当な所がないので出直すことにする。そして大野君が観察していた左岸側のルートに登ることにし、小川君がロープを付けて取り付く。スタンスも意外と有る上、悪そうに見えた落ち口付近もあっさり越えることができた。その後も小難しい滝を水線通しに登っていく。10m滝は大野君がフリーで登ったので、シュリングを垂らしてもらったが、残置ハーケンが有った。



割岩沢 最大の滝

少し進むと、いよいよ矢筈岳に突き上がる所までやってきた。当初、登れば良いなと思っていた最も左の直登ルンゼは、傾斜が強過ぎて無理そうなのでパスする。次のルンゼも、やや傾斜はあるもののスタンスが得られそうなので、ここから取り付くことにする。少し登ると僅かながら緩むので、高度を上げる。しかし下からでは見え難かったヌメリが増加し、そのまま進む気になれない。右上を見ると乾いたスラブとなっており、灌木も1本見えるので先ずはそこを目指す。しかしスラブを覆う草の密度がだんだん高くなり良いスタンスが得難く、灌木の少し手前でとうとう極悪な状況を迎えてしまった。1m脇の灌木に、どうしても近づけないので更に少し上の灌木を目指し、何とか辿り着く。そこで漸くロープを出し、後続を迎え入れる。その上は幾分傾斜も緩み、親指ほどの灌木が15m間隔位で続いている。そこからロープを2ピッチ出すと矢筈岳の西側ピークに出る。

ここから山頂まで片道15分。漸く憧れの矢筈岳の山頂に到着、感激に浸る。しばし展望を楽しんだ後、先を急ぐので出発。尾根を外さないように藪を漕ぐと、磁北線方向に向いてから藪は濃くなったが、



憧れの矢筈岳山頂にて

かえって直射日光に晒されずに済んだ。そして予定通り、光来出沢東又沢の源頭より下降を開始する。地形図とコンパスで方向を定めて進んで行くと、やがて沢形が顕著となってくる。そして左岸より涸れている沢が合わさる。その先で涸滝が現われるが、左岸より容易に巻くことができる。しかし続く滝は兩岸とも険しいので巻くことは叶わず、懸垂下降20mで右岸側より下りる。更に巻き下りられない滝が続き、今度は左岸側より懸垂下降15mにて下りる。ロープを仕舞って先に進むと物凄いガレ沢と出合う。どうやらCo710の二俣のようだ。未だ水は現れないが、ガレの下からは強い水の音がしている。更に下りると漸く水が現れ、手をつけると殊の外冷たい。生き返るとともに、ザックの中の大量の水とも漸くお別れできた。

なかなか幕場適地が現れないが、もうすぐ下部ゴルジュに突入してしまいそうなので、下のガレ堆積地のトップを15分間掛けて土木作業を行ない、何とか幕営地を確保する。

8月13日 晴れ

やや寒い朝を迎えた。幕場のすぐ下で左から支流が合わさる。S字3段10m滝を下り、滝を2つ下りると沢が右に屈曲し大滝となっている。ここは右岸から巻き下り、最後に懸垂下降15mにて沢床に下り立つ。すぐに右岸から支沢が入る。CS3m滝を補助ロープで懸垂下降し、更に5m滝を下りると左岸にブロックが残っていた。ナメ床を進むとまたもや大きな滝が現れ、ここも右岸より懸垂下降20mにて下りる。下から眺めるとヒョングリ滝であった。

ゴルジュを進み、左岸から支沢が合わさるとゴルジュの中に釜を持つ小滝が続き、飛び込みを駆使して通過する。体が冷えるので僅かな日向で1本立てる。淵を泳ぎ、本流の出合までもう少しという所で、物凄いゴルジュが現れる。巾1m、高さ10mの絶景。中杉川以上だ。そこを通過するとメジロが現れ始め、間もなく本流に出合う。

防虫ネットを被り、赤いナメ床、大釜を通過。明るく伸びやかな沢だ。少し進むと中滝沢が右より5m滝にて流入する。その先も釜を持つナメ小滝が続く。釣り屋も入り易いためか、魚影がない。これといって悪場も無く、インゼルの先で幕場適地を方々に有するシシマキ沢出合に着く。栄養補給した後、小川君はシシマキ沢に、そして私は本流を釣り上がる。お



光来出沢東又沢の下部ゴルジュ



かげ様で今日の夕餉も、豪華なものとなった。この辺りまで来ると、防虫ネットも不要となる。

その後もナメ滝や斜瀑主体なので快適に遡り、ゴルジュを迎える。入口は、割れ目といった感じで、とりあえず入ってみる。4段10m滝、2段6m滝を登り、先に進む。左側は庇状で圧迫されるが、右側はポイントを選べば巻き上がれる。3m、2m滝と続き、先に見えるCS3m滝は登れるか微妙、どうしようかと思っていたら小川君が追いついてきて、チャレンジしたいとのこと。それでは行ってみようかと続く。ツッパリにてあっさりと突破。更にその先の様子を偵察に行ったが、登れそうとのことなのでザック2つを荷揚げし、ツッパリで続く。続く5m滝も小川君はあっさりと登って行ったが、私はザックを背負ったままでは、唯一あるスタンスには乗り込めず、荷揚げをして登る。このゴルジュも堆積が進んでいるようだ。その上の10m滝は右側から廻り込むと、容易に越えられる。

ゴルジュを越えたので、ここからは幕場探しを急がなければならない。どう見ても幕場適地は乏しいが幸い、先の二俣で狭いながらも何とか安心して寝られるスペースが得られた。夜天気の確認をしたが、明日一日は持ちそうも無さそうだ。

8月14日 曇り時々雨

一適の雨すら降らなかった4日間とは打って変わって、朝からどんよりと曇り空。天気悪化も前倒しになっているようなので、今日も勤勉に出発。

沢は大分細くなり、傾斜は強くなってきた。3~4m程度の滝が幾つも現れるが、その何れもが登ることができる。Co1240の小ピークに向けて枝沢を幾つか分け、予定通りのルートを実行に辿って行くと沢形は続き、藪漕ぎ7分で雨量計小屋に飛び出る。少し休んだ後、巡視路を辿り三ツ鼻経由で栗ヶ岳に達した。

栗ヶ岳からは栗薬師経由で五百川に下山。最後の最後でメジロの見送りを受け、それどころかヒルまでもが名残惜しそうにお出まししたようで、若干の被害を受けた。登山口から20分ほどかけて雨の上上がった道を歩き、八木ヶ鼻温泉へ。併設の食堂で、待ち焦がれた大ジョッキを盛大に空けて打ち上げをし、帰路についた。



最高峰の栗ヶ岳山頂にて

下田・川内山塊の盟主と最高峰を結ぶ沢旅。メンバー、天気共に恵まれ、念願の無雪期の矢筈岳山頂を踏むことができ、思い出深い山行となった。また、乏しい食料事情を



華やかに彩ってくれた岩魚達に、心より感謝致します。

【メンバーより一言】

越後クラブ念願の矢筈岳に僕も同行することができました。見渡す限り、山の名前がわからない！ショック！！今までの僕の登山歴は何だったんだろう。

東又沢もあんなに本流出合のそばにあるのに、誰も知らない秘密のゴルジュがあるなんて……。沢の醍醐味ですね。

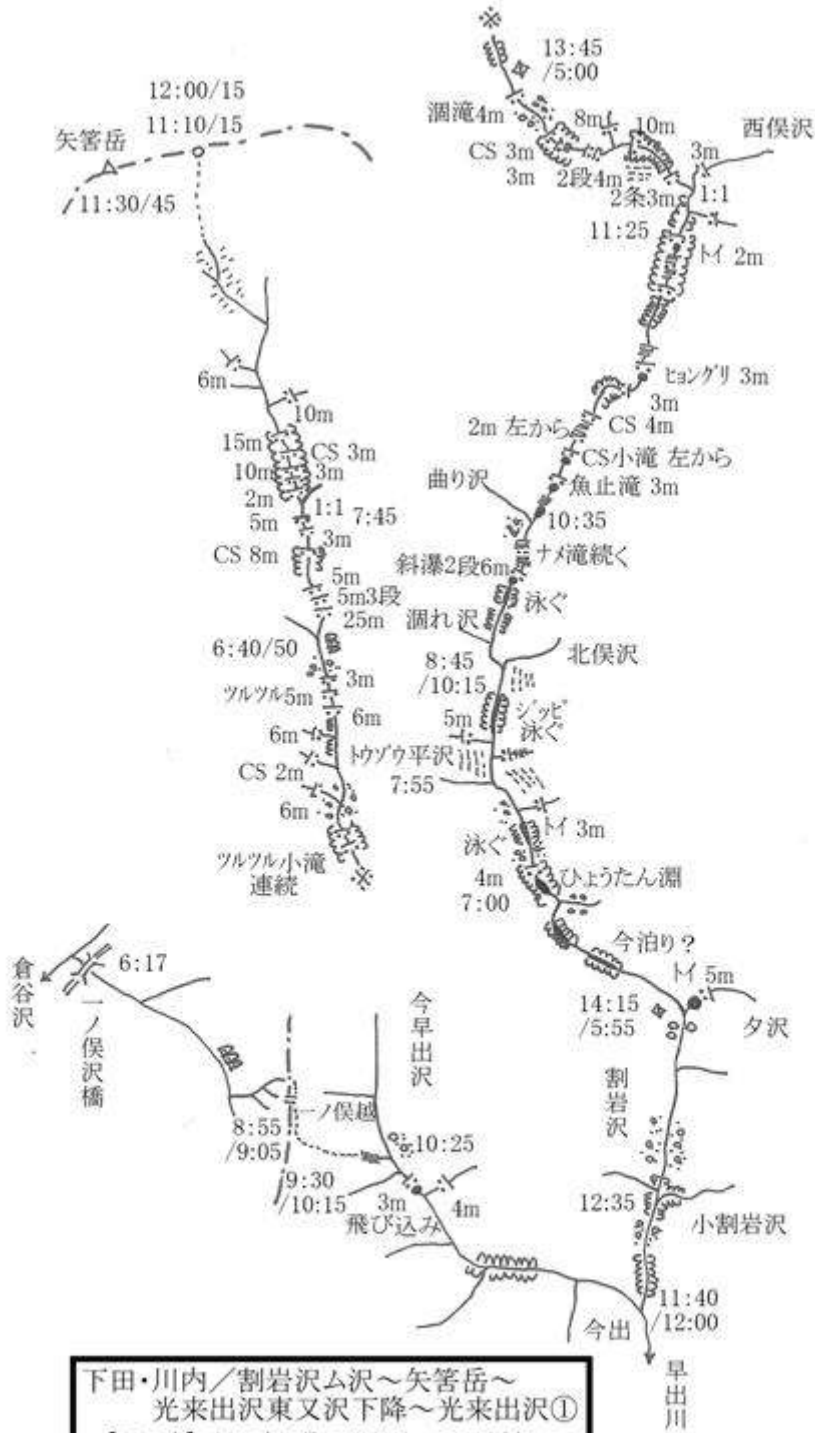
誘っていただいた佐貫さん、棚橋さん、素敵でマニアックな夏休みをありがとうございました。(小川)

下田川内。生命に溢れる山々の中央を貫く割岩沢に足を踏み入れた。ダムから入れなかったのは残念だが、念願の矢筈に立つことができた。長らく狙っていた東又沢も下ることができた。お盆の1週間、誰一人として会うこともなく、自分たちだけの溯行を楽しむことができた。なかなか良い夏休みだったと思う。(大野)

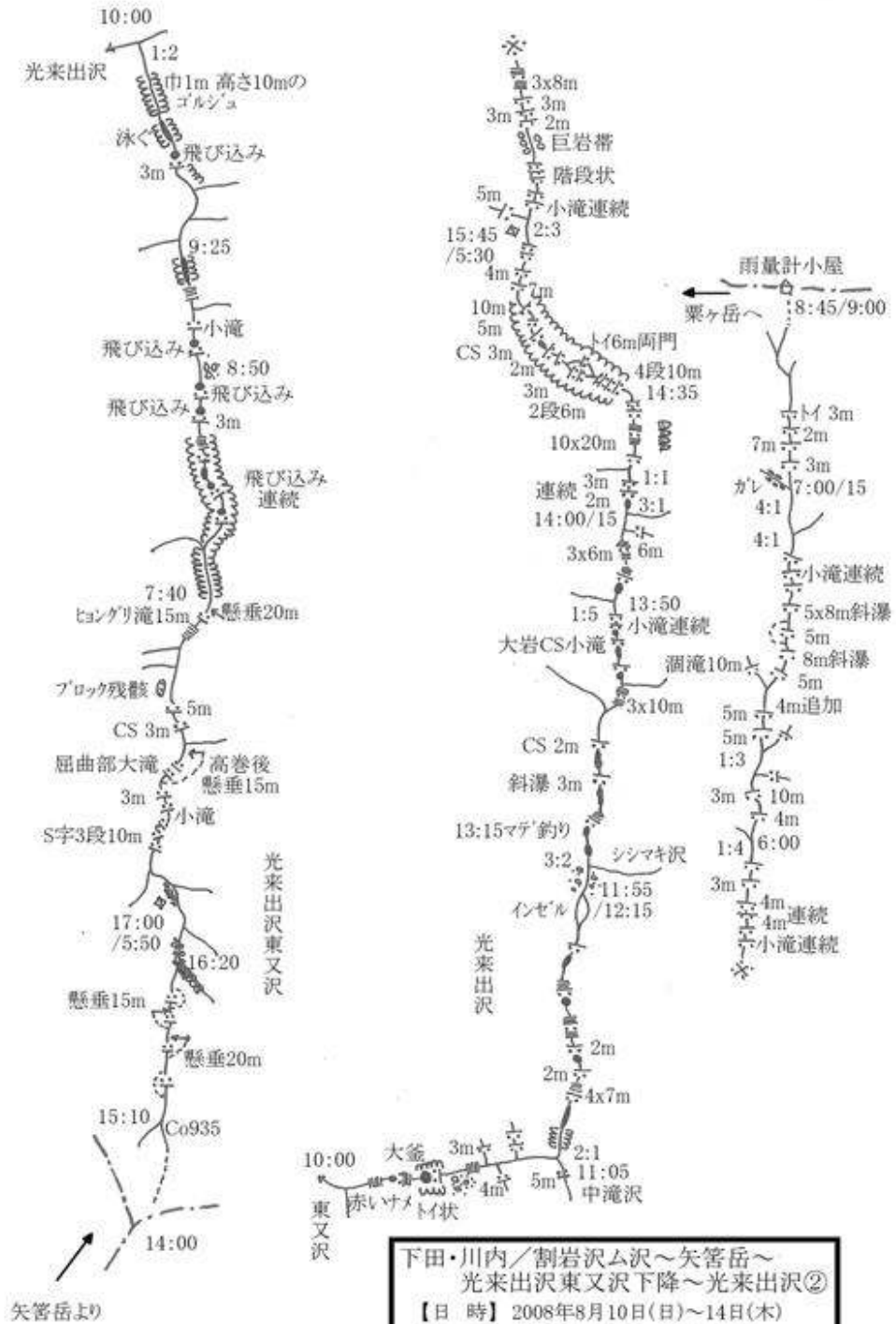
2年前に杉川から北俣沢につなげたときから、いつかは矢筈のピークに立ちたいとずっと思っていた。それも無雪期に。念願叶って、どかっと晴れた山頂を4人で独占できた時の感慨はずっと忘れられないだろう。割岩沢下部の静かな流れがジッピを境に転調し、ム沢上部の滝とスラブと藪につながる。矢筈から藪稜線を進み、下降した東又沢は途中の大崩壊地と下部のスリットゴルジュで飽きさせない。デート沢の光来出本流からあんなに遠かった粟に辿り着き、夢のような気持だった。とかく病気扱いされがちな真夏の下田川内の計画だったが、条件とメンバーの助けによって完遂できたことで、私の夏はもう最高です。(佐貫)

- 【行程】 8/10 一ノ俣橋(6:17)～最低鞍部(8:56/9:05)～(9:20/10:15)～アカバ沢出合(10:25)～今出(11:40/12:00)～夕沢出合C1(14:15)
- 8/11 C1(5:55)～トウゾウ平沢出合(7:55)～北俣沢出合(8:45/10:15)～曲り沢出合(10:35/11:00)～西俣沢出合(11:55)～Co760 C2(13:45)
- 8/12 C2(5:00)～Co900二俣(7:45)～Co1230ピーク(11:10/15)～矢筈岳(11:30/45)～Co1230ピーク(12:00/15)～光来出沢東又沢下降開始(14:00)～Co700 C3(15:30)
- 8/13 C3(5:50)～東又沢出合(10:00)～中滝沢出合(11:05)～シシマキ沢出合(11:55/13:15)～Co440二俣(14:00/15)～ゴルジュ入口(14:35)～Co560二俣C4(15:45)
- 8/14 C4(5:30)～Co750二俣(6:00/09)～雨量計小屋(8:45/9:00)～三ツ鼻(9:08)～粟ヶ岳(9:40/55)～登山口(11:45)

【地図】 室谷、駒形山、粟ヶ岳、光明山



下田・川内/割岩沢△沢～矢筈岳～
 光来出沢東又沢下降～光来出沢①
 【日時】2008年8月10日(日)～14日(木)
 【メンバー】棚橋(L)、佐貫、小川、大野
 【作図】棚橋



下田・川内／割岩沢△沢～矢筈岳～
 光来出沢東又沢下降～光来出沢②
 【日時】2008年8月10日(日)～14日(木)
 【メンバー】棚橋(L)、佐貫、小川、大野
 【作図】棚橋